

文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）活用事例 【青森県】 平川市立小和森小学校

青森県の平川市立小和森小学校 教頭 石澤 勝明 様から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。
 小和森小学校は、現在、第5学年を中心に全国学力・学習状況調査の過去問題や各自治体の問題等に取り組まれています。そこで、これからさらにMEXCBTの活用を広げていくための展望や、それによって期待される児童の学習や業務の改善への効果などについて、具体的にお話を伺いました。
 ■■■学校HPのURL <https://kowamorikko.exblog.jp/>■■■

活用の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県学習状況調査（第5学年児童対象）の質問紙調査がMEXCBTを介して行われることから、まずは第5学年児童から活用を始め、全学年へ活用を広げている。 ・ 学習の振り返りの際、紙媒体のテスト、デジタルのドリルソフト等と併用し、復習や学習内容の定着を図る。 <p>（出題例）（1）CBT※システムの操作に慣れるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文部科学省 入門問題 ②ほっかいどうチャレンジテスト（全ての学年に1年「かず」を出題） <p>（2）算数を中心とした復習のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ほっかいどうチャレンジテスト（4年「大きな数」「わり算の筆算」「折れ線グラフと表」「角の大きさ」等を出題） <p>（3）学習状況の把握と定着のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ①岩手県小学校学習定着度状況調査 令和元年度 小5（社会・理科） ②やまぐち学習支援プログラム 令和3年 小5（国語・算数）
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット端末で問題を解くということで、意欲的に課題に取り組んでいる。 ・ 結果がすぐに分かり、解き直しができるため、学習内容の理解が深まっている。
先生の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ MEXCBTに掲載されている全国学力・学習状況調査の過去問題や各自治体の問題に児童が取り組むことにより、多様な問題に触れられ、身に付けさせたい学力の育成につながる。 ・ 短時間で手軽に取り組める問題も掲載されているため、ドリルソフトのように活用することで、基礎学力の定着につながる。 ・ 個人や集団の採点結果が即時に把握でき、個に応じた支援や集団へのフォローにつながる。 ・ 問題作成や印刷に係る労力が軽減され、働き方改革につながる。
今後の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の振り返り時以外にも、単元の途中での活用やドリル学習的な活用、家庭学習での活用など、活用の場を広げていく。 ・ MEXCBTに掲載されている問題に加え、自作問題を作成して、児童の実態に応じた問題に取り組めるようにすることにより、個別最適な学びにつなげる。 ・ 評価テストや「チャレンジテスト」（校内の基礎学力定着テスト）をMEXCBTで行うことにより、児童が即時に結果を把握、間違えた問題の解き直しができるようにし、基礎学力の定着を図る。また、教員は結果を迅速に集計・把握し、児童の支援や授業改善等に生かすとともに、紙媒体の印刷に係る省力化や消耗品等の節約により、業務改善をより一層推進する。



画像は学校ブログより転載：
<https://kowamorikko.exblog.jp/32963547/>

※ CBT = Computer Based Testing
 コンピュータを使用した調査。